

令和2年度第1回 久喜市青少年問題協議会  
協議のまとめ

1 現状

- ・ 事業の中止
- ・ 広報啓発活動の減少
- ・ 児童虐待案件の発生
- ・ 市町村別犯罪認知件数が増加

2 課題

- ・ 子どもの活動が潜在化  
(SNS、オンラインゲーム)
- ・ 人との交流ができない
- ・ 心のストレスが蓄積

3 今後の  
方策

- ・ 地域行事の実施
- ・ 子どもが屋外で遊べる場や発表  
できる場を提供
- ・ 新たな手段による広報啓発活動
- ・ 関係機関の連携強化

令和 2 年度第 1 回 久喜市青少年問題協議会  
協議のまとめ（項目別）

＜現状＞	
①	・新型コロナウイルスの関係で、防犯キャンペーンや街頭補導、防犯講話などの活動ができなくなっており、警察から直接青少年や市民に働きかける機会が激減している。
②	・警察や自主防犯活動団体による防犯活動が停滞し、コロナが長引いた際には違う方法での活動を行う必要がある。
③	・子どもに対する声掛け、言葉遣い（乱暴である）から家庭への心配があり、児童相談所が対応したことがありました。
④	・「地域で子どもを育てる」をモットーに活動しているが、現状のコロナ感染拡大に伴い、さまざまな事業を中止に追い込まれました。
⑤	・コロナの影響で、学校生活はとても大きな変化を余儀なくされ、子どもたち、特に最高学年（小 6、中 3、高 3）の子どもたちは体育祭、文化祭などの行事の中止、縮小など、とても気の毒に思います。
⑥	・令和 2 年度の市町村別犯罪認知件数が県内では大幅に減っているにも関わらず、久喜市は数少ない増加市である。
⑦	・青少年同士の活動の機会が大幅に削減、縮小されている現状を見ると、今後その影響が表れていくかもしれないと危惧している。
⑧	・多くの活動が制限され、今までの対応では処しきれないことが多く出そうで心配である。
⑨	・オンラインゲームで遊んでいる。（コロナで外に出られないから）ゲームを持っていない子は仲間外れになってしまう。
⑩	・コロナや暑さもあり、外遊びする子どもが見かけない。
⑪	・SNS で友人関係を増やしていつている。
⑫	・ネット情報を信じてしまう。ダイエットや美容に関することで体調を崩してしまう。
⑬	・中学生がたばこを吸っていた。どうやって購入できたのか。

＜課題＞	
①	・子どもたちの活動も潜在化傾向が見られる。
②	・子どもたちとのふれあい等の場をどのように増やすのか。
③	・SNSの使用の仕方
④	・人と交流できないこと、母と子で一对一の時間が長くなっていることが、子育ての辛い部分になるように思います。
⑤	・心の見えないストレスが積もっていくことも心配になってきます。

＜今後の方策＞	
①	・コロナ情勢が落ち着いてからの話になるが、本年度は児童・生徒とともにキャンペーン、防犯講話を行ったり、高齢者向けやネット犯罪の啓発チラシの作成に地元中高生のアイデアを活用する等の取り組みを進めていきたいと考えている。
②	・家庭と関係機関、団体との連携を強くしたい。
③	・青少年へ向けてのメッセージを本協議会、市長より動画等により発信することはできないか。
④	・家庭の教育力向上に向け、「子育てQ&A」を作成し配布する。
⑤	・子どもたちに学校外で達成感を感じさせる地域行事（祭り以外）を実施する。
⑥	・小中高が一体となって取り組めることが必要である。（子どもと保護者）
⑦	・委員や市民が定期的に情報交換できる状況づくりが必要。
⑧	・外で開放的な雰囲気でする場が絶対に必要だと思います。
⑨	・新たな方法での交流も探っていかななくてはいけないことも実感しています。
⑩	・小学生、中学生、新入生の対応を重点的にやる必要があると思います。不安な新生活のスタートを引きずりかねない。
⑪	・人として大切なこと、「人も自分も傷つけない」をコツコツと伝え続けなくてはいけないと思います。

# 資料 1

⑫	・中3は高校受験がありますが、この状況をよく理解して範囲を絞るなどの対応も必要かと思います。
⑬	・子どもたち一人ひとりが自分の考えを発表できる場を多数作っていただきたいと考えています。
⑭	・子どもたちの「心の声」を「生の声」にして、学校や家庭など多くの場で発表させてあげてほしいと考えます。